

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 27 日現在

機関番号：13401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2021

課題番号：16K04542

研究課題名(和文) 省察的実践者の力量形成とその評価の組織化に関する実践研究

研究課題名(英文) A Reflective Research in-and-on the Professional Development of Reflective Practitioner and the Organization for evaluation of it

研究代表者

柳澤 昌一 (Yanagisawa, Shoichi)

福井大学・学術研究院教育・人文社会系部門(教員養成)・教授

研究者番号：70191153

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：D.A.ショーンの省察的実践者(reflective practitioner)とその教育をめぐる諸研究は専門職教育のもっとも重要な理論的基盤となっている。本研究においては省察的実践とその評価に関わるショーンの論究を精査し、ショーンにおいては実践を評価する力そのものが省察的実践者の力量の中核として位置づけられていること、そしてまたその力そのものの評価をめぐるショーンのパラダイムを析出し(A)、実践者からの聴き取りと実践者自身の記録の跡づけに基づく事例研究(B)、それらの基礎研究をふまえた評価の組織化についてのモデルの構想・試行(C)を連動して進めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

大学における専門職教育の高度化および実践の場における学習の展開は、大学改革において、また変動する社会における学習においてもっとも重要な課題となっている。本研究は専門職の実践的力とその長期的な形成過程、そしてその評価のための具体的なアプローチとしての省察的学習展開記録の組織をショーンの省察的実践者の理論的な提起と実践研究の相互的展開を通して明らかにするものである。評価が外形的数量的測定に傾きつつ肥大化し、実践的な力量形成のプロセスを阻止する作用をもたらしている中で、力量形成の展開とその評価を実現するための実践的研究となっている。

研究成果の概要(英文)：Donald A. Schon's theory of "reflective practice" is the most important basic concept and approaches for the professional development and learning. In this study I ascertain the structural formation and multi-layer structure of Schon's concept of reflective practitioner, and elucidate the importance of practitioners' competence of evaluation (appreciation system) for professional development(A). I proceed the case studies on the process and record of practitioners' professional development(B), and practice of coordination of professional learning and it's evaluation based on the basic study of A and B.

研究分野：学習過程研究 組織学習研究 社会教育研究

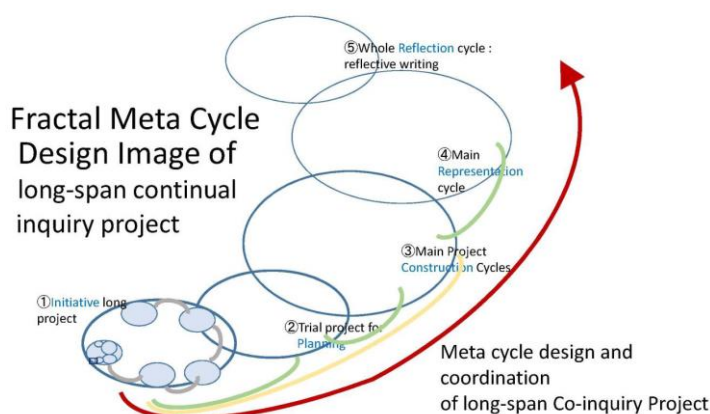
キーワード：省察的実践 専門職教育 教育評価 社会教育 教師教育 組織学習 学習過程

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

# 省察的実践者の力量形成と その評価の組織化に関する 実践研究

2016～2021

柳沢 昌一



## 1. 研究開始当初の背景

### a. 専門職の実践的力量的形成研究 ショーンの省察的実践者をめぐる研究の展開

専門職の実践的力量的形成とその教育をめぐる研究と実践において、ショーンの省察的実践をめぐる諸研究は大きな影響を与え続けている。しかし、これまでの研究は主として *The Reflective Practitioner*, 1983 で提起された基本概念を、実践の脈絡の理解とは離れて適用するものが多く、ショーン自身が同書、および *Educating the Reflective Practitioner*, 1987 等で克明に描き出している省察的実践の学習プロセスとそのデザイン、そしてその背後にあるショーンの学習プロセス評価の視点と方法については研究が深められてこなかった。

主著 *The Reflective Practitioner* の全訳（柳沢昌一他訳『省察的実践とは何か』2008）、およびそれに続く著書 *Educating the Reflective Practitioner*, 1987 の翻訳（柳沢昌一他訳、2016年刊行予定）も進み、ショーン自身の事例研究とその理論化の過程を踏まえた、省察的実践とその力量的形成の研究の基盤が培われてきている。

本研究はこれらの基盤を踏まえ、ショーンの省察的実践者の力量に関わる教育とその評価の視点・方法・構成について、ショーン自身が跡づけている事例研究の脈絡を踏まえ明らかにする。

### b. 社会教育職員の力量的形成をめぐる研究の意義とその展開

実践の中からの実践研究と省察的実践者概念の提起

戦後日本の社会教育においては当事者による実践記録が積み重ねられ、実践研究が進められてきた。こうした記録と研究を基盤に、実践を支える職員の働きが記録を通して明らかにされる条件が生まれ、社会教育職員の力量的形成研究にもつながっていく。

こうした展開を踏まえて日本社会教育学会企画出版編集委員会編『学びあうコミュニティを培う—社会教育が提案する新しい専門職像—』（2009）では地域の学習を支える専門職の力量的形成にかかわって実践と省察のサイクルを中軸とする「力量的形成の支援システム」が提起され、さらにこうした取り組みの拡大と発展は今年発刊された日本社会教育学会編日本社会教育学会編『地域を支える人々の学習支援—社会教育関連職員の役割と力量的形成—』（2015）にま

とめられている。

## 実践と実践力の評価という課題

こうした実践と研究の展開にともない、そこでの実践と力量形成の質をどう評価するのか、その視点と方法の明確化が求められてくる。日本社会教育学会編『社会教育における評価』では、従来の実践評価の弊害や問題点を指摘すると同時に、実践を支えその力量形成を支える評価の実現とその組織化が、重要な課題として提起されている。

本研究は、こうした社会教育職員研究、そして評価研究の展開を踏まえ、社会教育職員の実践力形成評価の視点・方法・組織について実践的に解明し提起することを目的とする。

## 2. 研究の目的

本研究では、社会教育における職員研究、評価研究の積み重ねの再検討、そして、社会教育職員の長期にわたる実践的力量形成の跡づけに基づく事例研究、さらにはショーンの省察的実践者の力量形成とその評価をめぐる研究の吟味を踏まえ、省察的実践者の力量とその形成を評価する視点・方法を明らかにするとともに、それらをさらに実際の研修等において、実践者とともに実地に検討していくサイクルを組織し、その組織化・制度化への展望をひらくことを目的とする。

### a. 事例を通じた力量形成過程の検証

省察的実践者の力量形成とそのプロセスを支える組織についての事例研究およびそれに関わる当事者による記録を、評価の視点から再検討し、実践と実践者の力量形成の視点を明らかにする。

### b. 専門職の力量形成をめぐる評価についての研究・理論的前提の批判的検討

D.A.ショーンの『省察的実践とは何か』・『省察的実践者の教育』とその後の研究における事例研究とその分析の方法と枠組みの理論的検討を通して、ショーンにおいて、省察的実践者の力量がどのような方法・視点・枠組みによって評価されているかを明らかにする。また、社会教育実践研究および職員研究において、実践と実践者の力量についてどのように検討され、その中で評価がどのようになされてきたかを検証する。

### c. 評価の方法・組織、基本的な枠組みの構築と妥当性の検討

事例研究・理論研究を踏まえ、両者を照らし合わせつつ、省察的実践者の力量形成を把握・検討する方法とそれを支える組織、および評価の基本的な枠組みの構築を進める。

### d. 実際の試行・運用による検証

試行的な評価の運用を進め、妥当性のアセスメントを行いつつ、評価の方法・基本的に枠組みについて、研究者・実践者からの批判的な検討を重ねる。

### e. 組織化・制度化への展望

試行的な評価の運用とその成果を踏まえつつ、評価を継続的・組織的に発展させていく方法についても検討し、その成果を日本社会教育学会・社会教育職員養成連絡協議会等において提案する。

## 3. 研究の方法

### A. D.A. ショーンにおける省察的実践者の力量とその形成をめぐる評価の視点・方法・枠組みの分析

ショーンは『省察的実践者の教育』の中で、建築デザイン・精神分析・経営コンサルティング・学校教育等の多様な分野に関わる専門職教育における実習場面の具体的な記録に基づ

き、省察的実践のための学習とそのコーチングのあり方を分析している。その中でショーンは、省察的実践者の力量をめぐる評価の視点と方法についても事例を通して示唆している。省察的実践者の力量は、実践の状況と展開との相互作用の中でとらえることが必要であり、断片的な要素に分解することができないが、しかし、実践の展開とそこでの思考・省察を、叙述することは可能であり、それを通してより明確にその質と構成を把握することも可能となる。本研究では、ショーン自身が同書の中で取り上げている数多くの事例を評価に焦点を当てて再検討しつつ、ショーンが提起する省察的実践の評価の視点・方法・枠組みを析出していく。

『省察的実践者の教育』における事例は、数時間から数年にわたるものであるが、ショーンは『フレーム・リフレクション』(1994)の中で、より長期にわたる実践者の力量形成について跡づけている。本研究では、こうした実践者の長期的な力量形成についてのショーンの評価の視点・方法について、多様な事例研究と照らし合わせながら検討していく。

#### B. 社会教育職員の実践力形成に関わる長期的な事例研究に基づく評価の視点・方法の検討

これまでの研究の中で積み重ねてきた、実践者の長期的な力量形成過程をめぐる記録とその分析を踏まえ、またショーン的事例研究の再検討を踏まえながら、その評価の視点・枠組みを導くとともに、その視点・枠組みの妥当性について実践者の参加も得て、実践を通して検証する過程を組織していく。

#### C. 省察的実践力の評価の組織化およびその制度化の可能性をめぐる実践研究の展開

実践的な力量とその形成をめぐる評価の視点・枠組みを明らかにする研究・実践と連動しつつ、それを具体化するための 学習過程・評価過程の組織化についても取り組むとともに研究していく。福井と東京において進められている社会教育実践に関わる組織的な実践研究と研修と連動させながら、実践を支える評価を組織化していくための具体的な取り組みを進めるとともに、その組織化・制度化に向けての展望をひらいていく。

### 4. 研究成果

本研究においては省察的実践者の力量形成とその評価をめぐり、A.省察的実践者の力量形成をめぐる理論的研究、B.実践者からの聴き取りと実践者自身の記録の跡づけに基づく事例研究、C.それらの基礎研究をふまえた評価の組織化についてのモデルの構想・試行を連動して進めている。それぞれについて以下のような研究を進めた。

A. [理論的検討] D.A.ショーンの省察的実践者 (reflective practitioner) とその教育をめぐる諸研究は専門職教育のもっとも重要な理論的基盤となっている。本研究においては省察的実践の評価に関わるショーンの論究を精査し、ショーンにおいては実践を評価する力そのものが省察的実践者の力量の中核として位置づけられていること、そしてまたその力そのものの評価をめぐるショーンのフレームを析出した。このことと関わりショーンの省察的実践の教育をめぐる主著 *Educating the Reflective Practitioner*, 1987を全訳を刊行し、あわせてその理論構成をめぐる論稿をまとめ刊行した。(ドナルド・A・ショーン著 柳沢昌一・村田晶子監訳『省察的実践者の教育』鳳書房,2017、柳沢昌一「省察的実習のプロセスと専門職教育改革をめぐるショーンの追う」[訳書解説]、柳沢昌一『『省察的実践者の教育』を読み解く』看護教育 58 (12))

- B. [事例研究に基づく評価の視点・方法の検討] 実践者の力量形成過程については、その長期の展開過程を跡づけが不可欠となるが本研究では、長期的な実践経験を重ねている社会教育職員から実践の長期的な展開とそれに関わる学習・研究のプロセスを語っていただき、その展開とその条件と解明する取り組みを重ね、とりわけ社会教育の新資格「社会教育士」の創設と関わりその研修のデザインと組織について検討を進めた。これらの省察的実践者の力量形成とその評価の研究に関わり日本教育学会『教育研究』に以下の論稿を寄稿した。教育改革と省察的実践のコミュニティへの企図 日本教育学会『教育学研究』88(1)
- C. [評価の組織化・制度化をめぐる実践研究] 日本社会教育職員養成協議会の社会教育職員養成をめぐるプロジェクト研究とも関わり、新資格「社会教育士」の研修をめぐる組織的な検討を進め、福井大学において2021年度より新資格に対応した社会教育主事講習を開講し省察的実践者の力量形成を支える協働探究・実践省察型の講習を実現するとともに、参加型評価の組織化を合わせて進めた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 柳沢昌一	4. 巻 第88巻1号
2. 論文標題 教育改革と省察的実践のコミュニティ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育学研究	6. 最初と最後の頁 65-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳沢昌一	4. 巻 58
2. 論文標題 『省察的実践者の教育』を読み解く	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 看護教育	6. 最初と最後の頁 978-987
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 柳沢昌一
2. 発表標題 Dimensions of reciprocal reflection-in-action 相互的な 行為の中の省察 の次元
3. 学会等名 省察的実践学会準備委員会 D.A. ショーン 『省察的実践者の教育』を読む 連続協働研究会 cycle2 2018.7.31-8.1 福井大学・早稲田大学（ネットで結んで同時開催）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 柳沢昌一
2. 発表標題 Limitation of learning mode and it's reflection in reflective practicum 省察的実習における学習モードの制約とその省察
3. 学会等名 省察的実践学会準備委員会 D.A. ショーン 『省察的実践者の教育』を読む 連続協働研究会 cycle2 2018.12.28 福井大学・早稲田大学（ネットで結んで同時開催）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yanagisawa, S., Kishino, M.
2. 発表標題 “ Reflective Lesson Study and Professional Learning Communities ”
3. 学会等名 World Association of Lesson Studies International Conference 2017, special session for Lesson Study and Professional Learning Communities in Fukui School visit ( 国際学会 )
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 ドナルド・A・ショーン著 柳沢昌一・村田晶子監訳	4. 発行年 2017年
2. 出版社 鳳書房	5. 総ページ数 534
3. 書名 省察的実践者の教育	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------